1 変位履歴に基づく連動性評価のための地形地質調査

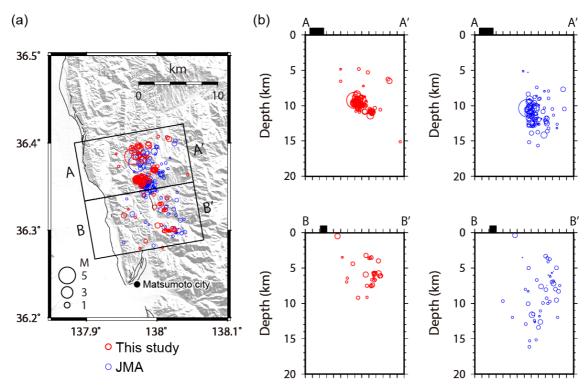


長野県安曇野市明科七貴において松本盆地東縁断層北部のトレンチ掘削調査を実施し、最新活動が7~13世紀、地震時上下変位量が約1mであることを明らかにした。



長野県北安曇郡池田町会染周辺において松本盆地東縁断層北部のS波極浅層反射法地震探査を実施し、地震時変位量をより正確に復元するための断層構造等を明らかにした。

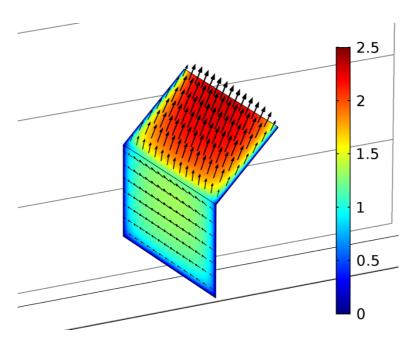
2 速度構造不均質を考慮した精密震源決定



2017年12月6日に発生した長野県中部の地震(M_j5.3)の余震分布。

気象庁一元化震源(青)と速度構造不均質を考慮して決定した震源分布(赤)。速度構造 不均質を考慮した結果、A-A'断面において、気象庁や防災科研の CMT 解と調和的な東傾斜 の面状分布が確認できるようになる。

3 三次元 FEM による断層モデルの高度化



有限要素解析から得られた断層面上すべり変位分布の一例 (スリップパーティショニング発生時)。